



JCIC-Heritage

Japan Consortium for International Cooperation in Cultural Heritage

《運営委員会名簿一覧》

※五十音順 2012年8月現在

青木 繁夫 (サイバー大学世界遺産学部 教授)

石澤 良昭 (上智大学 教授 (特任))

伊藤 博士 (公益財団法人トヨタ財団 常務理事)

上野 邦一 (奈良女子大学古代学術研究センター 特任教授)

岡田 保良 (国士舘大学イラク古代文化研究所 所長)

片桐 正夫 (日本大学 名誉教授)

亀井 伸雄 (独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所 所長)

後藤 健 (独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館 特任研究員)

小宮 浩 (公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団 専務理事)

関 雄二 (大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立民族学博物館研究戦略センター 教授)

柄 博子 (独立行政法人国際交流基金文化事業部 部長)

友田 博通 (昭和女子大学国際文化研究所 所長)

中川 武 (早稲田大学理工学術院 教授)

西村 康 (公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所 所長)

西村 幸夫 (東京大学大学院工学系研究科先端科学技術研究センター 教授)

野口 昇 (公益社団法人日本ユネスコ協会連盟 理事長)

日高 健一郎 (筑波大学大学院人間総合科学研究科 教授)

前田 耕作 (和光大学 名誉教授)

松村 恵司 (独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所 所長)

宮川 康雄 (公益財団法人住友財団 常務理事)

宮崎 恒二 (東京外国語大学 理事)

宮廻 正明 (東京藝術大学大学院美術研究科 教授)

茂木 義三郎 (公益財団法人三菱財団 常務理事)

矢野 和之 (日本イコモス国内委員会 事務局長)

山田 順一 (独立行政法人国際協力機構企画部 部長)

吉田 恵司 (大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立民族学博物館文化資源研究センター 教授)

[関係行政機関]

文化庁

外務省

内閣官房

[2012年8月文化遺産国際協力コンソーシアム発行]



JCIC-Heritage

Japan Consortium for International Cooperation in Cultural Heritage



コピーOK コピーOK コピーOK

文化遺産国際協力コンソーシアム

〒110-8713 東京都台東区上野公園 13-43

独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所 気付

TEL.03-3823-4841 FAX.03-3823-4027

<http://www.jcic-heritage.jp/>



◆JR 鶯谷駅南口より徒歩 8 分
◆JR 上野駅公園口より徒歩 15 分

海外の文化遺産保護に関する国内の連携・協力を推進する
文化遺産国際協力コンソーシアム
Japan Consortium for International Cooperation in Cultural Heritage

海外の文化遺産保護に関する国内の連携・協力を推進する

文化遺産は、人類の長い歴史の中で築かれてきた文化の証であり、時空を超えて私達に感動を与えてくれます。そのような人類共通の財産を未来に引き継ぐ責任が私達にはあります。しかしながら、世界には紛争や自然災害等で危機に瀕している文化遺産が数多く存在します。我が国では2006年に公布された「海外の文化遺産の保護に係る国際的な協力の推進に関する法律」により、海外の文化遺産保護に係る国際協力について国や教育研究機関の果たすべき責務や関係機関の連携の強化などの国が講ずるべき施策が定められました。同時に、国内の政府機関、教育研究機関、NGOなどが連携組織を形成し、協動的な共通基盤を確立することを旨として2006年6月に「文化遺産国際協力コンソーシアム」が設立されました。

【activities1】

ネットワークの構築

コンソーシアムでは、我が国の政府機関、独立行政法人、教育研究機関、NGOなどを横につなげるネットワーク構築のため、専門分野、地域を問わず会員を募っています。また、若手専門家に対する情報発信の一環として、学生会員制度を設けて、文化遺産国際協力に関心を持つ学生への情報の提供も行っています。さらには、会員相互の活発な意見交換をはかるため、会員の情報交換の場としてコミュニティ・サイトを開設し、会員間の交流を促進しています。加えて、文化遺産国際協力に関する様々なテーマのもとに研究会を開催し、地域間の情報共有を図っています。

【activities2】

ネットワークを活用した情報の収集と提供

会員もしくは各分科会活動により収集された情報とともに、事務局が独自に収集した文化遺産国際協力に関わる様々な基礎情報（専門家情報、国際協力実績、遺産に関する情報等）をデータベース化し、会員がウェブ上で検索できるシステムを提供しています。

【会員専用 検索データベース】



【コンソーシアムの運営体制】

様々な機関・団体が既存の枠組みを超え協力し、文化遺産保護の体制を支えています。会員を代表した運営委員会、分科会を年間計15回程度開催し、文化遺産保護に関する最新の情報・研究を共有し議論する他、常日頃から綿密な連携を取ることで、オール・ジャパンを体現する体制を取っています。

- A: ワンデュー・ボダン・ゾン(ブータン)
- B: ナン・マドール遺跡(ミクロネシア連邦)
- C: サイウーン旧市街(イエメン)
- D: アボメイ(ベニン)
- E: 慶州祥里三尊仏像の保存環境調査(韓国)
- F: バダン文字文化財(インドネシア)
- G: ティワナク遺跡(ボリビア)

【activities3】

文化遺産国際協力に関する調査研究

文化遺産国際協力に対する各国の取り組み等に関しての調査研究を行っています。この調査研究をもとに、日本による協力事例の企画・準備活動への支援を実施しています。諸外国からの保存修復等に係わる支援協力要請への対応としてモンゴル国、ブータン王国、ミクロネシア連邦等において文化遺産国際協力の調整支援を行いました。その他にも、被災文化遺産復旧に係る調査を実施し、中国、タイ、インドネシア、イラン、ギリシアの被災例、及びフランス、イタリア、オランダ、アメリカの支援例を通して、各国の文化遺産の防災体制や国際支援動向について報告書をまとめました。

【被災文化遺産復旧に係る調査報告書】



【activities4】

文化遺産国際協力についての普及・啓発活動

政府機関、教育研究機関、NGOなど、日本では様々な機関が国際協力に携わっています。日本が行っている文化遺産国際協力の活動について、ウェブサイトを通じて活動事例を紹介しています。また、シンポジウム等で、文化遺産国際協力分野における最新の動向や、国際協力の重要性についてお伝えしていきます。

【シンポジウムタイトル一覧】

- ◎第1回(2006年度)文化遺産国際協力と日本の役割
- ◎第2回(2007年度)文化遺産の国際協力と人材育成
- ◎第3回(2008年度)私の文化遺産再発見
- ◎第4回(2009年度)観光は文化遺産を救えるか?—国際協力の新たな展開—
- ◎第5回(2010年度)文化遺産保護は平和の礎をつくる
- ◎第6回(2011年度)文化遺産を危機から救え—緊急保存の現場から—